

負債の会計から捉えた会計基準のコンバージェンス

社会科学部 増村 紀子

キーワード

財務諸表 情報 投資者 会計基準 負債

研究概要

わが国では、貸借対照表上の資産の部については、会計理論上の検討が詳細に行われ、また財務諸表の利用者にとっての有用性が実証分析として確実な結果が明らかにされている。しかし負債については、会計理論上でも、また実証分析でも、負債が持つ情報の有無については問題視されてきていない。

近年、国際会計基準と米国基準では「金融資産・金融負債の公正価値オプション」の会計処理を採用するなど、負債についても時価による評価の範囲を拡大し、貸借対照表上の負債の部についても網羅的な表示を進めつつある。

わが国ではこのような動きは見られないが、もしもコンバージェンスした時に投資者はこれらの情報をどのように捉えるかということから、実証分析と会計理論の両面で歩を進めつつある。

アピールポイント

現在、わが国では国際会計基準へコンバージェンスする作業を続けている中で、国際会計基準や米国基準で採用されている会計処理をすべて導入することがわが国企業の財務諸表に良い影響を与え、利用者にとってより透明度の高い情報提供ができるのか否かが、明らかにできる。

応用分野

わが国の会計基準がわが国の実情に応じたものとなり、なおかつ国際的に認められるものとなることに対して、本研究の進展が示唆を与えることになるだろう。